

# SDGs (持続可能な開発目標) と地方創生



SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、国連に加盟する世界193か国が合意した17の目標、169のターゲットのことで、貧困等の途上国を中心とした社会課題の解決のみならず、気候変動等の先進国・途上国共通の社会課題の解決を含め、2030年までに達成すべき目標が設定されています。従って、SDGsを達成することは、身近な課題と地球規模課題を同時に解決する中で、地方創生を実現していくことでもあるのです。



- 【Goal 1】** あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 【Goal 2】** 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 【Goal 3】** あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 【Goal 4】** すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
- 【Goal 5】** ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
- 【Goal 6】** すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 【Goal 7】** すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 【Goal 8】** 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する
- 【Goal 9】** 強靱 (レジリエント) なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- 【Goal10】** 各国内及び各国間の不平等を是正する
- 【Goal11】** 包摂的で安全かつ強靱 (レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- 【Goal12】** 持続可能な生産消費形態を確保する
- 【Goal13】** 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- 【Goal14】** 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- 【Goal15】** 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- 【Goal16】** 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 【Goal17】** 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

## SDGsにおいて重要な三つのキーワード 「地球規模」、「誰一人残さない」、「バックキャスト」

SDGsのキーワード	概要
身近な課題と地球規模課題の両立	イギリスのEU脱退に関する国民投票や米国での大統領選挙において、国民の幸せか、難民の受け入れかといった議論が目撃されました。2030年に向け、地方創生も次のステップへの移行が求められており、身近な課題の解決と地球規模課題の解決の両立を実現する研究が求められています。
誰一人取り残さない	一部のみにしか使えない技術や事業は、対象とならない人に悪影響を与える可能性があります。また、特定の課題を解決する技術が他の課題を生み出すこともあります。2030年に向け、あらゆる人が便益を得られ、トレードオフを引き起こさない研究が求められています。
2030年へのムーンショットと求められるバックキャスト思考	世界的に、既存技術の発展の延長上には持続可能な未来は存在しないことが指摘されています。そのため、まずあるべき未来を描きそこから逆算することで、現状の延長上にはない未来を創造するバックキャスト思考が求められています。このバックキャスト思考により、米国がかつて月面着陸を成功させたときのような人類の大きな飛躍を実現する研究が求められています。

# 研究シーズ集における各研究と関連するSDGsのゴールの記載における狙い

研究シーズ集では、全ての研究とその研究に関連するSDGsのゴールを記載しています。しかしながら、研究の中には、既にSDGsに貢献している研究もあれば、今後SDGsに貢献する研究への発展を目指す研究もあります。

こうした状況の中で、全ての研究とSDGsとの紐づけを行った最大の理由は、持続可能な社会の形成を目指したパートナーシップの拡大にあります。

大学の研究は専門的なものが多く、一つ一つの目的を理解するのに時間を要する場合があります。その状況がパートナーシップの形成を阻害している可能性があります。金沢工業大学では、世界の共通言語であるSDGsはこうした状況を打破する力があると信じています。研究者自ら研究とSDGsのゴールを結び付けることで、誰でも研究の目的を一目で理解することが出来るようになることが期待されます。そして、既にSDGsに貢献している研究はもちろんのこと、今後SDGsに貢献する研究への発展を目指す研究においても、その発展に必要なパートナーとの出会いを生み出すことができると考えています。

是非、皆様が関心を持っているSDGsに貢献する研究を研究シーズ集の中から発見し、持続可能な社会を生み出すためのパートナーシップを形成するために“共同研究”“委託研究”などのご相談をいただけますと幸いです。

## 第1回「ジャパンSDGsアワード」SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞を受賞

日本政府は、持続可能な開発目標（SDGs）に係る施策の実施について、関係行政機関相互の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的に推進するため、内閣総理大臣を本部長、内閣官房長官・外務大臣を副本部長、他の全ての国務大臣を本部員とする持続可能な開発目標（SDGs）推進本部を設置しています。

SDGs推進本部は2018年12月26日にSDGsの達成に向けて優れた取組を行う企業・団体等を表彰する制度として設立された「ジャパンSDGsアワード」の第1回の表彰式を官邸にて行いました。

金沢工業大学は「ジャパンSDGsアワード」において、SDGs達成に資する、特に顕著な功績があったと認められる企業又は団体として、SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞を授与されました。



首相官邸でのジャパンSDGsアワード受賞式の様子

首相官邸ホームページ  
[https://www.kantei.go.jp/jp/98\\_abe/actions/201712/26sdgs\\_award.html](https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/201712/26sdgs_award.html) より

金沢工業大学が「ジャパンSDGsアワード」が受賞した理由としては以下の4点があげられます。

- ・教育優先の方針による学部学科を超えた全学体制の貢献
- ・自ら学び行動する技術者として、SDGsに貢献する次世代リーダー育成
- ・社会実装型研究を通じた地域社会との密接な連携
- ・日本初のSDGsに特化した通年カリキュラムの設置

これからのSDGs時代においては、大学に求められる役割が大きく変わっていきます。大学は社会の役に立つ研究を研究室の中でのみ行うのではなく、生み出した研究成果を実社会の中に組み込み、その中で新たな発見を得て研究を深めていくといった社会実装型の研究を推進していく必要があります。

金沢工業大学がジャパンSDGsアワードを受賞したことにより、今後益々社会実装型研究を通じた地域社会との密接な連携が求められていくことが示されたと捉えることができます。